

トルコギキョウ12月下旬から1月中旬の栽培管理のポイント

平成29年12月 安足農業振興事務所

○今後の管理のポイント

- ・「秋の管理」から「冬の管理」へ温度管理を変更しましょう。
- ・地温の低下による生理障害の発生を防止しましょう。
- ・1番花収穫後は、未然に害虫の発生を抑えましょう。

1 温度を冬の管理への変更

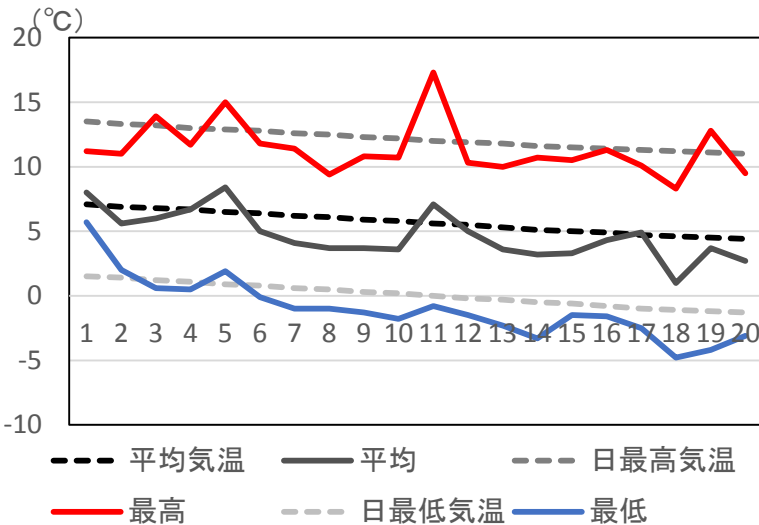


図1 12月上旬からの気温の推移(気象庁データ;佐野市)

- ・12月の気温の推移は、平年よりも低くなるが多かった。
- ・向こう1ヶ月の平均気温も平年並または低い確率がともに40% (平成29年12月14日; 気象庁発表) のため、「冬の管理」へ変更しましょう。

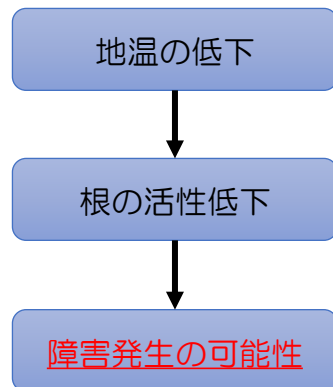


午前の温度：28℃ (開度率：40%)
午後の温度：30℃ (// : 40%)
日没後3時間の温度：25℃
昇温処理後の温度：15℃
電照時間：4時間30分～5時間

2 地温低下による生理障害の発生抑制



図2 12月から1月の地温の推移



- ・地温の底は1月中旬～1月下旬です(図2)。
- ・地温が低下すると、根の活動は低下します。活動が低下した根は、花芽の充実に必要な肥料成分の吸収が減少するため、生理障害(プラスチック)の発生が懸念されます。
- ・生理障害の発生を軽減するため、**葉面散布**により肥料成分を補いましょう。

【使用する葉面散布剤】

- ・ホストップ(750倍)、鉄力あくあF14(10,000倍)、ペンタキープV(5,000倍)

3 1番花収穫後の管理

- ・収穫後の害虫(アザミウマ類)の発生に注意しましょう。防除を怠ると害虫の媒介するウイルス病が発生し、2番花の収穫ロスにつながるため、生育中の1番花と同時に薬剤散布をしましょう。
- ・1番花が上根傾向だったため、収穫後のロゼットは少ないと見込まれます。
- ・2番花の整枝時期は、1番花の生育遅れの影響により1月下旬頃から開始の時期と見られます。
- ・灌水時期の目安は、1月～2月です。それまでの灌水は不要です。